



# 第38回 愛媛形成外科研修会

## 抄録集

日 時 平成28年12月10日(土) 17時00分～  
場 所 四国がんセンター  
地域医療連携研修センター 3階 研修室①②  
愛媛県松山市南梅本町甲160番地  
TEL:089-999-1111

当番世話人

四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科 河村 進



## 第38回 愛媛形成外科研修会

### 研修会について

1. 参加受付は、16時30分より会場で行います。
2. 参加費として2,000円を受付にて申し受けます。  
今回の特別講演は、日本形成外科学会の「領域講習」に認定されております。  
「領域講習」として受講される専門医の方は受講料として1,000円を申し受けます。
3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 一般演題での発表時間は、一題あたり5分、要望演題は3分を予定しております。
5. PCはWindows7、PowerPoint2013を使用しての発表になります。  
(当日は、USBメモリーあるいはPC本体を持参して下さい。)

## 会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 1 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成 10 年 7 月 4 日	15 名
第 2 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成 10 年 12 月 5 日	17 名
第 3 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成 11 年 6 月 19 日	20 名
第 4 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 11 年 11 月 27 日	19 名
第 5 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 6 月 24 日	17 名
第 6 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 12 月 9 日	20 名
第 7 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 6 月 23 日	23 名
第 8 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 12 月 8 日	23 名
第 9 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 6 月 8 日	27 名
第 10 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 12 月 14 日	27 名
第 11 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 6 月 28 日	25 名
第 12 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 12 月 13 日	25 名
第 13 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 6 月 26 日	26 名
第 14 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 12 月 4 日	29 名
第 15 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 6 月 18 日	31 名
第 16 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 12 月 10 日	35 名
第 17 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 6 月 24 日	31 名
第 18 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 12 月 9 日	26 名
第 19 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 6 月 16 日	37 名
第 20 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 12 月 15 日	30 名
第 21 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 6 月 14 日	30 名
第 22 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 12 月 6 日	30 名
第 23 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 6 月 27 日	32 名

会期	世話人	会場	日時	参加者
第24回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年12月12日	28名
第25回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成22年6月19日	34名
第26回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成22年12月11日	30名
第27回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年6月18日	31名
第28回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年11月26日	25名
第29回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4階 末広	平成24年6月23日	34名
第30回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成24年12月1日	26名
第31回	田中 伸二 (HITO病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成25年6月22日	36名
第32回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2階 楓の間	平成25年11月30日	30名
第33回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成26年6月21日	32名
第34回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カンファレンス会議室	平成26年11月29日	32名
第35回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成27年6月27日	36名
第36回	田中 伸二 (HITO病院 形成外科)	HITO病院 3階 大会議室	平成27年11月21日	27名
第37回	手塚 敬 (松山市民病院 形成外科)	松山市民病院 2階多目的ホール	平成28年6月11日	32名
第38回	河村 進 (四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科)	四国がんセンター 研修室	平成28年12月10日	

## 四国がんセンターへのアクセス



## プログラム

### 一般演題 (17:00~17:40) 座長: 四国がんセンター 山下 昌宏 先生

1. 頭頂部原発SCCの頸部リンパ節転移に対して全頸部照射を行った1例 (5分)  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹 他
2. Submental flapで再建を行った3症例 (5分)  
四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科 山崎 由佳 他
3. 小児耳下腺原発の悪性腫瘍に対しループ型神経移植を行った1例 (5分)  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 松満 紗代子 他
4. イトグモ咬症の2例 (5分)  
愛媛県立南宇和病院 皮膚科 森戸 浩明
5. リンパ管周囲組織微小形態変化に基づくリンパ浮腫治療  
～鼠径リンパ節輸入リンパ管におけるLVSEAおよびリンパ組織剥離～ (5分)  
愛媛県立中央病院 形成外科・顎顔面外科 浜田 裕一 他

### 要望演題 (17:40~18:20) 座長: 四国がんセンター 河村 進 先生

1. 当院での植皮術の方法 (3分)  
愛媛県立中央病院 形成外科 徳永 和代 他
2. 愛媛大学での植皮術の方法 (3分)  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 戸澤 麻美 他
3. 松山赤十字病院における植皮術の方法 (3分)  
松山赤十字病院 形成外科 庄野 佳孝
4. HITO病院での採皮方法ーパジェットダーマトームの使用 (3分)  
HITO病院 形成外科 米田 武史 他
5. 当院での採皮術の方法 (3分)  
松山市民病院 形成外科 松本 麻由 他
6. 市立宇和島病院での植皮術 (3分)  
市立宇和島病院 形成外科 野澤 竜太
7. 四国がんセンターでの植皮術の方法 (3分)  
四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科 山下 昌宏 他

休憩 (10分)

総会 (18:30~18:45)

### 特別講演 (18:45~19:45) 座長: 愛媛大学医学部附属病院 中岡 啓喜 先生

「糖尿病性・虚血性足部潰瘍における形成外科的治療」

講師: TANAKAクリニック 形成外科・美容外科 院長 田中 嘉雄 先生

共催: 松山形成外科医会 愛媛形成外科医会

一般演題 (17:00~17:40) 座長: 四国がんセンター 山下 昌宏 先生

1. 頭頂部原発SCCの頸部リンパ節転移に対して全頸部照射を行った1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○森 秀樹、中岡 啓喜、戸澤 麻美、三宅 啓介、村上 達郎、松満 紗代子

(5分)

69歳女性。2年前より頭頂部のいぼに対して冷凍療法が行われていたが、疼痛が強いため他院で生検されたところSCCと診断され当科紹介された。当科初診時頭頂部に30×50mm大の皮膚潰瘍と、左耳後部、右耳前部、右頸部、項部などに多数リンパ節腫大を触知した。頭頂部は切除・植皮を行い、頸部に対しては全頸部放射線照射を行った。

2. Submental flapで再建を行った3症例

四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科

○山崎 由佳、山下 昌宏、河村 進

(5分)

症例1. 72歳男性。左中咽頭癌に対し中咽頭切除、左頸部郭清(レベルⅡ)を施行しSubmental flap(7×3cm)で再建を行った。症例2. 75歳男性。下咽頭癌術後に外瘻形成。DP皮弁で閉鎖試みたが皮弁壊死したため同皮弁で閉鎖した。症例3. 78歳男性。口腔底がんRT後の左下顎骨骨髓炎に対して左臼歯抜歯、下顎骨辺縁切除、口腔底部切除施行後同皮弁で再建した。



3. 小児耳下腺原発の悪性腫瘍に対しループ型神経移植を行った1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○松満 紗代子、森 秀樹、戸澤 麻美、三宅 啓介、村上 達郎、中岡 啓喜

(5分)

症例は9歳女児。右耳下腺原発Mucoepidermoid carcinomaのため右耳下腺を顔面神経を含めて全摘されたのち、右腓腹神経を用いてループ型顔面神経再建を行った。術後半年で回復傾向がみられ、現在術後2年でHBスコアはⅢまで回復した。

4. イトグモ咬症の2例

愛媛県立南宇和病院 皮膚科

森戸 浩明

(5分)

症例1は39歳、女性。ズボンをはくとクモがおり右大腿部を咬まれた。39度の発熱と発赤を来し、入院加療するも最終的に10cm大の潰瘍を来した。受診時虫体を持参しており、イトグモと同定された。症例2は49歳、女性。睡眠中何かに右上腕を咬まれた。全身の潮紅と局所の発赤腫脹をきたしており、潰瘍化したのち治癒した。症状と経過、発生地域が症例1と似通っておりイトグモ咬症と診断した。

5. リンパ管周囲組織微小形態変化に基づくリンパ浮腫治療

～鼠径リンパ節輸入リンパ管におけるLVSEAおよびリンパ組織剥離～

愛媛県立中央病院 形成外科・顎顔面外科 大分大学医学部・生体構造医学講座

○浜田 裕一、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、尾崎 絵美、石野 憲太郎、三浦 真弘

(5分)

リンパ浮腫診断と治療に関して、治療法選択のため病態組織変化に基づくものは少なかった。我々はリンパ管および周囲組織微小形態変化とICG蛍光像を関連付け、蛍光所見から効率的な治療法を選択するための分類を行い治療に役立てている。今回、鼠径リンパ節輸入リンパ管におけるLVSEAおよびリンパ組織剥離を行い良好な結果を得られたので報告する。

要望演題 (17:40~18:20) 座長: 四国がんセンター 河村 進 先生

1. 当院での植皮術の方法

愛媛県立中央病院 形成外科

○徳永 和代、小林 一夫、中川 浩志、浜田 裕一、尾崎 絵美、石野 憲太郎

(3分)

植皮面積が大きい時や、生着しにくい要因がある時、分層植皮を選択する。採皮は、採皮しやすい電動デルマトームを使用することが多く、厚さは0.3mm(12/1000inch)で、シートまたはメッシュとして使用している。固定は、四肢は包帯を使用し、固定しにくい部はtie-over dressingを行っている。採皮部にはシリコンゲルメッシュドレッシングを使用。フリーハンドによる採皮も行われるが、上皮化の面からみると電動デルマトームのほうが安定している。

2. 愛媛大学での植皮術の方法

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○戸澤 麻美、中岡 啓喜、森 秀樹、三宅 啓介、村上 達郎、松満 紗代子

(3分)

全層植皮はメスで採取しdefattingしてtie overdressingを行う。分層植皮は背部または大腿部からPaget型デルマトームもしくは電動デルマトームを用いて厚さ約0.3mmで採取し、メッシュグラフトとする。四肢では包帯固定、その他はtie overdressingを行う。病棟で小さい分層植皮をするときはディスポのフェザーやフリーハンドナイフを用いる。

3. 松山赤十字病院における植皮術の方法

松山赤十字病院 形成外科

庄野 佳孝

(3分)

松山赤十字病院で行っている植皮術の方法について報告する。採皮方法・採皮に使用する機械は、全層はメス・分層は電動ダーマトームやパジェットダーマトーム、薄めの分層植皮はディスクのカミソリを使用している。主に顔面の小範囲の植皮・足底荷重部などに整容的・機能的な面より全層植皮を行い、その他は中間の厚さの分層植皮を行うことが多い。躯幹・頭部・顔面ではTie-over固定、四肢では巻き付け固定を行うことが多い。

4. HITO病院での採皮方法ーパジェットダーマトームの使用

HITO病院 形成外科

○米田 武史、大川 勝正、田中 伸二

(3分)

我々は、分層植皮の際には、パジェットダーマトームを用いている。背部や大腿、殿部から12/1000inc h(約0.3mm)で採取している。また、兎径部や腹部などから、単純縫縮可能な範囲で組織を採取し、パジェットダーマトームを用いて分層植皮片に細工することも行っている。これは、時としてご高齢者にみられる、分層採皮創における瘢痕のびらん化を回避することができる。

5. 当院での採皮術の方法

松山市民病院 形成外科

○松本 麻由、手塚 敬、上村 由美子

(3分)

分層植皮術の方法は、同門である愛媛大学医学部附属病院の方法に準じて行っている。当院の特徴は、高齢者では上腕内側から全層の採皮を行うことである。同部位から採皮を行う理由として、質の良い皮膚を広く採取することができ、また瘢痕が目立ちにくいからである。

6. 市立宇和島病院での植皮術

市立宇和島病院 形成外科

野澤 竜太

(3分)

植皮する部位により採取方法も決まる傾向にあると思われる。顔面の腫瘍には鎖骨部からの全層植皮、四肢の腫瘍には下肢からの分層植皮を行っている。熱傷は術中や術後体位の都合から、背部よりも下肢や腹部から採皮することも多い。症例を供覧し報告する。

7. 四国がんセンターでの植皮術の方法

四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科

○山下昌宏 河村進 山崎由佳

(3分)

皮弁採取後のraw surfaceや肉腫の広範囲切除後の被覆として分層植皮を選択している。採皮はフリーハンドナイフを使用し、厚さは15/1000inchで採取している。採皮部にはカルトスタットを貼付し、自然脱落を待つ。3倍メッシュで植皮をすることが多く、tie-over固定を行っている。

休憩 (18:20~18:30)

総会 (18:30~18:45)

1. 次回研修会の日程
2. その他

特別講演 (18:45~19:45) 座長: 愛媛大学医学部附属病院 中岡 啓喜 先生

「糖尿病性・虚血性足部潰瘍における形成外科的治療」

講師: TANAKAクリニック 形成外科・美容外科 院長 田中 嘉雄 先生

慢性皮膚潰瘍の中でも、下肢の虚血性潰瘍は難治性で血行再建が最善の治療法である。しかし、血行再建法の選択基準は施設間で異なり、また患者さんの社会的背景・全身状態・合併症などによって、必ずしも病態に対しての最善と考えられる治療法が選択できない場合もある。これまでの啓蒙によって、糖尿病や虚血はほとんどの患者さんが形成外科に紹介されるようになった。この受診のタイミングを逃さずに、患者の評価と患者及び家族の望みに配慮して最善の治療への軌道に乗せることが形成外科に求められる役割である。これらについて講演する。

#### 経 歴

1979年 大阪医科大学医学部卒業  
1992年 同 形成外科学教室 助教授  
1996年 オーストラリア留学  
2000年 医療法人 神鋼会 神鋼病院形成外科医長  
2001年 同 部長  
2007年 香川大学医学部形成外科学主任教授  
2016年10月11日 TANAKAクリニック形成外科・美容外科を開業

専 門 医 日本形成外科学会専門医、日本皮膚腫瘍外科専門医(形成外科学会)、日本手外科専門医  
日本創傷外科学会専門医

所属学会 日本形成外科学会評議委員、日本下肢救済・足病学会評議委員、日本美容外科学会  
頭蓋顎顔面外科学会評議委員、マイクロサージャリー学会評議委員  
乳房オンコプラスチックサージャリー学会評議委員 など

#### これまで受賞した賞

2001年 World Society of Reconstructive Microsurgery(Taipei,Taiwan) 最優秀賞  
2002年 兵庫県医師会医学研究賞  
2003年 日本形成外科学会 基礎研究部門学術奨励賞  
2007年 日本形成外科学会 臨床研究部門学術奨励賞  
2011年 日本形成外科手術手技学会 最優秀演題賞

